

セクシャルマイノリティについて学びませんかー多様性が彩るキャンパスを目指してー

【内容】LGBTおよび性の多様性の理解について

南 和行氏



また、参考事例として「Kスポーツクラブ事件」の訴訟についても触れ、スポーツクラブの不適切な対応や、当時担当した理解ある裁判官の事、この裁判が和解に至った経緯の説明をされました。

世間一般のインフラはシスジェンダー（割り当てられた性別に違和感がない人達）向けにできているという事、京都で実際にあるという共有トイレの男女が半分ずつに分かれたマークについての話もされました。親切心でそのような表記を

しているようだが、実際それを見て不快な思いをしたり違和感を覚える人もいるという事でした。

その他参考として南氏が推薦する倉敷市教育委員会や関西大学の相談室のホームページの紹介、南氏の知り合いが関わるR F C（レインボーフォスターケア・児童養護施設など社会的養護における性の多様性を考える団体）の話がありました。

最後に、日本でのL G B Tの問題は男性・女性の立場を考える問題であり、管理職の年代である中高年男性世代の支配をどうしていくかという事（彼らは彼らなりの立場や枠の中で葛藤している）また日本の婚姻制度は男性が女性を支配する事が織り込まれていることについても触れ、広い視野を持ってL G B Tの問題に真摯に取り組まれている姿勢がうかがわれました。

研修会後の質問では自分の子どもが、修学旅行でトランスジェンダーの同級生が本人が思っている性別の側で他の同級生と同室になれないのはおかしいと言った、という話が出ました。南氏は他の生徒さん達がその子を大事に思って同室になろうとしたことがとても大切で、その子の生きて行く自信につながる、せめて、その子の思う性別と同じ性別の先生と同室にするなど、個別の対応をしてあげられなかったのか、と回答されました。

参加者アンケートでは内容が大変良かったという意見が多数をしめ、南氏の話の面白さや分かりやすい例などが好評だったようです。また、興味深く勉強になった、継続的に学び続けたいという意見も多くありました。